

株式の状況 (平成22年9月30日現在)

株式数及び株主数

発行可能株式総数	78,000株
発行済株式総数	19,500株
株主数	674名

大株主

	持株数	持株比率
株式会社アルグラフィックス	9,900株	50.8%
セイコーインスツル株式会社	4,080株	20.9%
ジーダット従業員持株会	783株	4.0%
岩崎 泰次	236株	1.2%
石橋 眞一	150株	0.8%
株式会社エスケーエレクトロニクス	90株	0.5%
株式会社図研	90株	0.5%
大日本印刷株式会社	90株	0.5%
凸版印刷株式会社	90株	0.5%
田口 康弘	88株	0.5%

所有者別状況

所有者区分	持株数	持株比率
金融機関	63株	0.3%
証券会社	36株	0.2%
その他国内法人	14,344株	73.6%
外国法人等	61株	0.3%
個人・その他	4,696株	24.1%
自己名義株式	300株	1.5%
計	19,500株	100.0%



本社 東京都中央区日本橋人形町2-26-5
Tel : 03-5847-0312 (代) URL : <http://www.jedat.co.jp>

当冊子に関するお問合せ先
株式会社ジーダット 経営企画部 E-mail : corporate.planning1@jedat.co.jp

※現在の人形町界隈には、かつて歌舞伎や浄瑠璃による操り人形の芝居小屋が建ち、庶民の人気を集めていたといわれます。表紙の写真は、歌舞伎十八番の中でも人気の高い勘進帳の武蔵坊弁慶像です。甘酒横丁と交差する緑道の入口広場で江戸情緒をかもしだし、往時をしのばせています。



株主メモ

上場市場	JASDAQ
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当基準日	3月31日
株式の売買単位	1株

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話 お問合せ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払 明細発行については、右 の「特別口座の場合」の郵 便物送付先・電話お問 い合わせ先・お取扱店を ご利用ください。	単元未満の買取・買増以外 の株式売買はできません。 電子化前に名義書換を失念 してお手元に他人名義の株 券がある場合は至急ご連絡 ください。

電子公告とし、次の当社ホームページに掲載
します。
(<http://www.jedat.co.jp/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由により、
電子公告をすることができない場合は、日本
経済新聞に掲載します。

第9期

上半期 株主通信

自平成22年4月1日 至平成22年9月30日



株式会社ジーダット

証券コード:3841



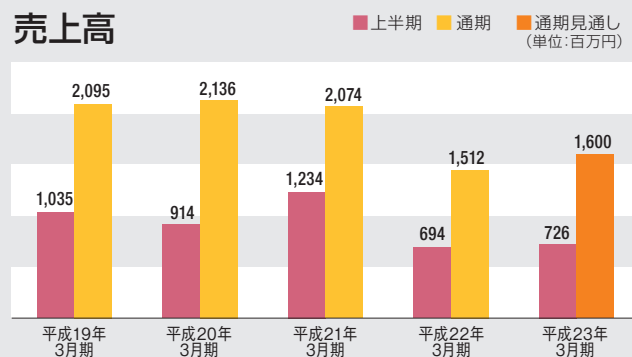
JEDAT は **Japan EDA Technologies** の略です。
 私たちは、日本の EDA のリーダーとして、
 電子産業の発展に貢献したいと考えています。

EDA とは **Electronic Design Automation** の略です。

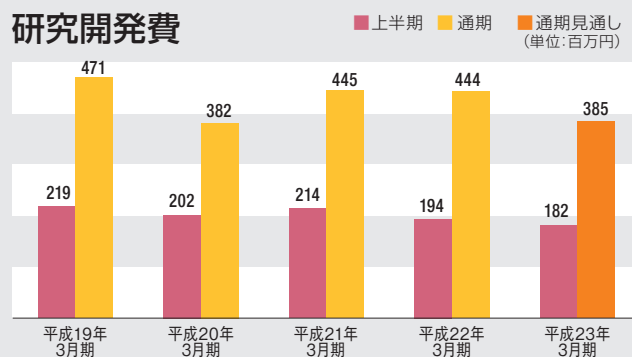
電子機器や電子部品の設計作業を支援、検証するソフトウェア（電子系 CAD）で、
 設計作業には不可欠なツールであり、設計期間の短縮や設計品質の向上を実現します。

財務ハイライト

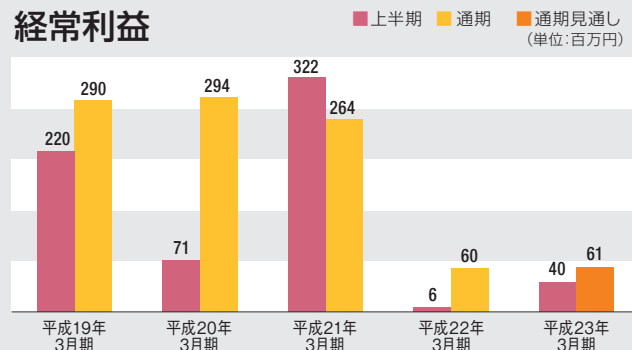
売上高



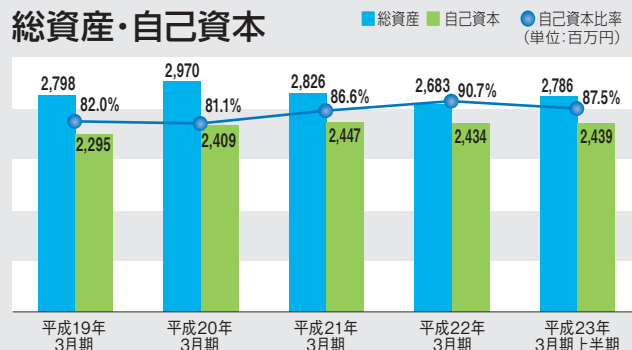
研究開発費



経常利益



総資産・自己資本



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素より当社企業グループに格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当第9期上半期は、当社顧客業界の設備投資抑制が継続されている中で、連結売上高は前年同期比4%増、連結経常利益は前年同期比約6倍となりました。これは主に液晶パネル業界の事業再編に伴う一時的な設備投資増と自社開発製品の売上割合増に伴う利益率の上昇によるもので、残念ながら、景況回復に転じたとは言い難い状況にあります。

円高等により、下半期も厳しい状況が続くと予想されますが、主に半導体設計分野での強化策として、(1) 大規模デジタル自動配置配線ツールの新興ベンチャーである米国ATopTech社との技術提携、(2) 昨年発表致しました回路設計分野向けの戦略商品C³ (Circuit-Cube) の大幅機能強化、(3) 省エネの波に乗って伸びているパワーデバイス向け電源解析ツールの新商品発表、を既に実施し、大手顧客への浸透を図っております。これら施策はこの10月開催の当社プライベートフェアで顧客の大きな反響を頂戴致しました。

海外展開につきましても、以前から人選しておりました、海外に精通したEDA経験豊富な人材を得て、海外営業本部を新設致しました。合わせて中国の開発子会社に自社販売体制を構築し、代理販売店支援を強化しております。また中韓台に続いて、今後は一時抑えていました米国への展開も進めてまいります。

以上の施策のほか、固定費を継続的に見直して無駄をさらに省く一方、社員教育に力を入れ、顧客の真の競争力アップに貢献できるよう、活気のある企業活動を継続してまいります。第9期はまだ大きな業績回復には至らないものの、当初予想通り、前期の営業赤字から大きく黒字に転換し、来期以降の継続的な成長に繋げてまいります。

株主の皆様には、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長
石橋 眞一

業績の概要

前年同期比増収増益

当社企業グループの主要な顧客である国内半導体関連ならびにFPD関連の製造業は、中国を始めとする新興市場の需要増により、業績は少なからず回復しておりますが、米国、欧州の景気回復遅延および急激な円高、国内エコポイントの終了による企業業績見通しの懸念から、設備投資にはなお慎重で、特に当社企業グループが扱うEDA製品のよう設計設備への投資は依然抑制されております。

こうした状況の中でも、当社は高比率の研究開発投資を継続し、中期戦略に基づいた製品開発および新製品リリースを計画どおりに行ってまいりましたが、顧客業界の設備投資抑制の壁は厚く、大幅な業績回復には至っておりません。売上高は、国内液晶パネル業界の事業再編に伴う一時的な設備投資や海外売上増により、7億26百万円と前年同期比で4.6%の増収となりましたが、残念ながら計画比では未達となりました。利益につきましては、自社開発製品の売上比率増による利益率の上昇や、固定費の削減、および費用の一部が第3四半期以降にシフトしたことにより、営業利益は31百万円、経常利益は40百万円と、前年同期ならびに計画に

対して大幅な増益となりました。

製品、サービスの区分では、製品売上高につきましては前年同期比17.0%増となりましたが、サービス売上高は既存顧客の設計部門縮小がなお一部継続し、5.3%減となりました。

半導体市場、FPD市場の区分では、半導体市場売上高につきましては、顧客業界の投資抑制により前年同期比2.3%減となりましたが、FPD市場売上高は前述の理由により、15.0%増となりました。

自社開発製品、代理販売製品の区分では、自社開発製品売上高につきましては前年同期比7.0%増となりましたが、代理販売製品売上高は、特に米国開発元ベンチャー企業の開発遅れ等により13.6%減となりました。

第3四半期以降につきましては、既に顧客業界の厳しい見通しの報道が相次いでおり、当社企業グループを取り巻く市場環境の悪化が懸念されますが、売上達成のための各施策を確実に実行し、期初計画を達成してまいります。

セグメント別売上高

	第2四半期累計期間（前年同期比、期初計画比）					通期（前年同期比）		
	平成22年3月期		平成23年3月期			平成22年3月期		平成23年3月期
	実績	期初計画	実績	前年同期比	期初計画比	実績	通期見通し	前年同期比
製 品	307	399	360	+ 17.0%	△ 9.7%	727	850	+ 16.8%
サ ー ビ ス	387	351	366	△ 5.3%	+ 4.4%	784	750	△ 4.4%
半 導 体 市 場	418	435	409	△ 2.3%	△ 6.1%	910	930	+ 2.2%
F P D 市 場	276	314	317	+ 15.0%	+ 1.1%	601	669	+ 11.3%
自 社 開 発 製 品	611	666	654	+ 7.0%	△ 1.8%	1,327	1,423	+ 7.2%
代 理 販 売 製 品	83	83	71	△ 13.6%	△ 13.3%	184	177	△ 4.3%
売 上 高 合 計	694	750	726	+ 4.6%	△ 3.1%	1,512	1,600	+ 5.8%

(単位：百万円)

四半期連結財務諸表

(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

四半期連結貸借対照表			四半期連結損益計算書		
(単位：千円)			(単位：千円)		
科 目	当第2四半期末 (平成22年9月30日)	前期末 (平成22年3月31日)	科 目	当第2四半期 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	前第2四半期 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
資産の部			売上高	726,720	694,990
流動資産	1 2,478,852	2,070,247	売上原価	199,092	230,376
現金及び預金	2 2,192,646	1,681,161	売上総利益	527,627	464,613
受取手形及び売掛金	194,300	291,776	販売費及び一般管理費	496,274	515,838
たな卸資産	11,599	7,832	営業利益又は営業損失(△)	31,352	△ 51,224
繰延税金資産	26,523	33,481	営業外収益	10,686	60,049
その他	55,981	59,395	営業外費用	1,118	1,966
貸倒引当金	△ 2,200	△ 3,400	経常利益	40,920	6,858
固定資産	1 307,479	613,446	特別損失	554	14,134
有形固定資産	32,988	35,628	税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	40,365	△ 7,276
無形固定資産	27,082	30,723	法人税、住民税及び事業税	4,234	3,014
投資その他の資産	247,408	547,094	法人税等調整額	11,327	△ 5,969
資産合計	2,786,332	2,683,693	四半期純利益又は四半期純損失(△)	24,803	△ 4,320
負債の部					
流動負債	347,012	248,884			
買掛金	34,619	48,751			
未払法人税等	6,089	6,219			
賞与引当金	52,943	55,516			
前受金	200,679	96,345			
その他	52,680	42,051			
負債合計	347,012	248,884			
純資産の部					
株主資本	2,441,517	2,435,914			
資本金	760,007	760,007			
資本剰余金	890,558	890,558			
利益剰余金	823,628	818,025			
自己株式	△ 32,676	△ 32,676			
評価・換算差額等	△ 2,198	△ 1,105			
為替換算調整勘定	△ 2,198	△ 1,105			
純資産合計	2,439,319	2,434,809			
負債純資産合計	2,786,332	2,683,693			

四半期連結キャッシュ・フロー計算書		
(単位：千円)		
科 目	当第2四半期 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	前第2四半期 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	243,091	86,725
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 411,312	11,148
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 19,200	△ 38,400
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,093	2,137
現金及び現金同等物の増減額	△ 188,514	61,611
現金及び現金同等物の期首残高	981,161	1,070,778
現金及び現金同等物の四半期末残高	2 792,646	1,132,390

1 流動資産、固定資産
 流動資産の増加、固定資産の減少は、主に「投資その他の資産」の「長期預金」から「現金及び預金」への振替え3億円によるものであります。

2 現金及び現金同等物の四半期末残高
 「現金及び現金同等物の四半期末残高」と四半期連結貸借対照表「現金及び預金」との差額は、預入期間が3ヶ月を超える定期預金14億円によるものであります。

2010年8月、海外営業本部を新設

～ 海外営業本部長に聞くジエダットの海外販売戦略 ～

Q1. 海外営業と国内営業の違いは？

まず、「ジエダット」という会社の知名度が全く異なります。日本では、顧客業界の大半の方が少なくとも社名ぐらいはご存知だと思います。ところが海外に出ますとあまり知られておりませんので、まずは会社紹介からスタート、ということになります。一方海外の設計者は、設計ツールの変更に対して比較的抵抗感が少ない傾向があり、新規参入でも機能さえ優れていれば購入して頂き易いという面もあります。



海外営業本部 本部長 **北川 恭資**

30年以上に渡り、国内外のEDA/半導体ベンダーで営業職や役員を歴任。特に海外のEDA業界や半導体業界に精通しており、新設の海外営業本部 本部長に就任。

Q2. 海外での売上を伸ばす方法は？

海外での営業活動を成功させるためには、緻密な情報収集に基づいた、販売戦略、効率性の検討が特に重要なポイントであると考えます。これまでの経験やネットワークを生かして、各国毎の定量的情報収集力を強化するとともに各製品の優位点を見直し、データに基づいた販売戦略を立て、フォーカスして売り込む、といった活動をより徹底させることで売上を伸ばしていくつもりです。

Q3. ターゲット国と、主に売り込む製品は？

まずアジア圏で中国、韓国、台湾を第一のターゲット国として、液晶パネル向けの設計環境を中心に売り込んでいきます。現在中国では、液晶パネル工場の建設ラッシュが起きており、特に大型パネル向けの最新技術の習得に強い関心を示しております。当社は、世界最先端である日本の液晶パネル業界で鍛え上げられた、最新鋭の設計環境を売り込んでいきます。

第二のターゲット国は米国です。米国はEDA世界市場の約半分を占めており、市場としては世界最大です。米国に対しては、世界トップクラスの大規模データ処理技術による、半導体設計向け製品を売り込んでいきます。今後、製品の特長と米国市場の特性を考慮し、レイアウト設計者と故障解析技術者向けにさらに絞り込み、プロモーションを行っていく予定です。

Q4. 売上目標は？

2年後には海外向けの売上高を、当社売上比率の20%程度まで伸ばしていきたいと考えております。その際、液晶パネル向けと半導体向けの売上比率は、五分五分になるものと想定しております。さらに中長期的には、当社売上げの大きな柱にしていきたいと考えております。

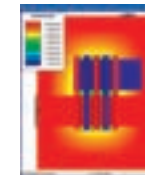
米国ATopTech社と事業提携

2010年6月、当社はミックストシグナルSoC (System on Chip) の設計向けに、アナログ分野でトップクラスである当社製品：α-SXと、同じくデジタル分野でトップクラスであるATopTech社ツールとの結合に関して事業提携を行いました。

新製品の販売開始

PowerVolt

EM/IR Drop検証ツールです。従来、設計の早い段階での解析が困難であった、パワーデバイスの信頼性・脆弱性に関わる特性を、早期かつ容易に解析することができます。



MSIM-LCD

液晶パネル設計用の高精度Spiceシミュレータです。3Dへの対応等により、高速化・高精細化が進む液晶パネルの電氣的な動作を、高精度にシミュレーションできます。

会社概要 / 役員

会社概要 (平成22年9月30日現在)

商号	株式会社ジエダット (Jedat Inc.)
所在地	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-26-5
代表者	代表取締役社長 石橋 眞一
営業開始	平成16年2月2日
資本金	760,007,110円
事業内容	電子回路・半導体集積回路・液晶モジュール等設計支援のためのソフトウェア開発・販売及びコンサルテーション
関連会社	株式会社ジエダット・イノベーション (Jedat Innovation Inc.) 福岡県北九州市若松区ひびきの2-5 情報技術高度化センター 績達特軟件 (北京) 有限公司 (Jedat China Software Inc.) 北京市西城区新街口外大街28号B座409-412室 URL http://www.jedat-soft.com.cn 株式会社A-ソリューション (A-Solution Inc.) 東京都中央区日本橋人形町2-26-5
所属団体	社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 社団法人 日本半導体ベンチャー協会 (JASVA) 一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会 (JESA) 日本EDAベンチャー連絡会 (JEVeC)

役員 (平成22年9月30日現在)

代表取締役社長	石橋 眞一
取締役	増山 雅美 (経営企画部長)
取締役	香月 弘幸 (システム部長)
取締役	伊藤 俊彦 ((株)アルゴグラフィックス 執行役員 財務・広報・法務統括部長)
取締役	伊藤 吉昭 (セイコーインスツル(株) 執行役員 水晶事業部長兼栃木事業所長)
常勤監査役	飯村 雄次
監査役	吉田 隆男
監査役	中村 隆夫 ((株)アルゴグラフィックス監査役)